

群馬県高崎市文化財調査報告書第三〇集

東町Ⅲ遺跡

高崎市計画事業東口第一土地区画整理道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

九九四

群馬県高崎市教育委員会

序

群馬県高崎市は、地方中核都市として近年目覚ましい発展を遂げております。本市は、北関東の中核都市として、さらには上信越地方と首都圏との間の交通や産業の面だけではなく、生活、文化をも含んだ地方間の交流拠点都市として、さらなる発展の可能性をもった都市であります。古くから交通の要衝として発展してきた本市は、東京から100キロメートル圏に位置しながら、上越新幹線、関越自動車道などの高速交通網の整備により首都圏との時間距離は次第に短縮されつつあります。また首都圏を含む近郊の地価高騰や住宅不足などから、住宅をさらに地方へ求める傾向が見られ、高速交通網の整備された本市においては、首都圏への通勤圏として発展し、都市化の波が押し寄せています。高崎駅周辺の町並みは、幸いにも第二次大戦の大きな戦災から免れ、小路や町屋が今もなお残っております。しかしこうした町並みも都市化の影響による再開発のため、徐々にその姿を消しつつあるのが現状です。

今回対象となった高崎駅東口周辺においても都市計画事業の一環として東口第二土地区画整理事業が行われることとなりました。当該地区は、周辺の発掘調査並びに試掘調査の結果から、火山災害に覆われた古代の水田跡の存在が知られております。当該開発事業におきましても、関係各機関と度重なる協議を行い、でき得る限り文化財の破壊をくい止める手段を講じるとともに、やむを得ず破壊される部分を対象に、事前の発掘調査を実施致しました。

本書は、今回の発掘調査の成果をまとめた概報であります。

今回の発掘調査により、従来予想されていた一時期の水田跡のほかに、他の火山災害に覆われた四時期の生活の痕跡が発見されました。度重なる火山災害に見舞われながら、必死に立ち直ろうとする先人達の努力の姿を思い起こし、感じる事ができました。今回の調査で得られた資料が、郷土の理解と地域の古代史解明、並びに全国の各研究者の方々の手助けとなればと思います。

最後になりましたが、事業の円滑な遂行にご協力いただきました地元関係者並びに関係各機関の方々に、厚く御礼を申し上げますとともに、悪天候の中、発掘及び整理作業にご協力いただきました作業従事者の皆様方に感謝の意を表しまして、序といたします。

平成6年3月

群馬県高崎市教育委員会

教育長 網中正昭

例 言

- ・本書は、高崎市都市計画事業東口第二土地区画整理事業区画道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- ・発掘調査には、高崎市教育委員会文化振興課埋蔵文化財係が当たった。

〈事 務 局〉 武井洋一、神戸聖語

〈調査担当〉 高井郁朗、鷺谷亨信

- ・当該事業の所在地及び調査期間、調査面積は下記のとおりである。

〈所 在 地〉 群馬県高崎市東町139番地 外

〈調査期間〉 1993年4月20日から

1994年3月31日まで（整理作業を含む）

〈調査面積〉 A 軽石層下面	438m ²
B 軽石層下面	3,276m ²
F P 洪水層下面	70m ²
C 軽石層下面	128m ²
C 下水田土壌下面	147m ²
合 計	4,059m ²

- ・高崎市教育委員会における調査番号は 226である。
- ・出土遺物、図面等は高崎市教育委員会が保管している。
- ・本書の執筆、編集は高井、鷺谷が協議のうえ行い、挿図作成等は担当者の指示のもとに次の者が行った。
影山秀子、桜井禮子、佐々木美智子、佐藤智子
田村 陸、塚本福代
- ・基準点測量は田中測量設計株式会社、花粉、テフラ分析は古環境研究所、表土掘削は井上総合リース株式会社にそれぞれ委託して実施した。
- ・発掘調査並びに本書作成にあたり、下記の方々にご教示、ご協力いただいた。（敬称略）
五十嵐信、石川正之助、鬼形芳夫、神戸聖語、
関口 修、星野守弘、地元関係者、
高崎市役所開発部区画整理 1 課

凡 例

- ・本書に使用した地図は、高崎市発行の 2,500分の 1、および10,000分の 1 地形図を原図とした。
- ・任意の点(0A, 0B)の国土座標値と国土座標軸を基準とした区画整理座標軸の誤差は次のとおりである。
(0A) X=36131.925 (0B) Y=-73167.737
N-3°03'10"-E
- ・挿図の縮尺は、それぞれにスケールを付した。
- ・セクション図、エレベーション図に付した数字は、海拔標高を表し、単位はmである。
- ・図中の方位記号は磁北である。
- ・各色調は、農水省監修の標準土色帖により決定した。

目 次

序

例言

凡例

第 1 章 経緯・経過

第 1 節 調査に至る経緯…………… 4

第 2 節 調査の概要…………… 4

1. 調査の方法…………… 4

2. 調査の経過（日誌抄）…………… 4

第 3 節 遺跡の地理的、歴史的環境…………… 5

1. 地理的環境…………… 5

2. 歴史的環境…………… 5

第 2 章 成 果

第 1 節 標準層序…………… 7

第 2 節 検出された遺構…………… 7

1. 浅間 A 軽石下水田跡…………… 7

2. 浅間 B 軽石下水田跡…………… 7

3. 榛名山二ツ岳降下火山噴出物
関連洪水層下遺構…………… 8

4. 浅間 C 軽石下水田跡…………… 8

5. その他の遺構…………… 8

写 真 図 版……………15

挿図目次

図 1 遺跡周辺図…………… 6

図 2 トレンチ配置図…………… 6

図 3 標準層序模式図…………… 7

図 4 I 区、II 区、V 区遺構実測図…………… 9

図 5 III区遺構及び遺物実測図……………11

図 6 IV区遺構実測図……………13

付図 浅間 B 軽石下水田跡全体図

第 1 章 経緯・経過

第 1 節 調査に至る経緯

高崎市は、都市計画事業の一環として、かねてから計画されている高崎駅東口周辺の再開発を中心とした東口第二土地区画整理事業の実施に踏みきり、今年度中において区画道路の一部建設を予定した。

ところで、当東町地区^{あずまちょう}においては、過去の発掘調査の結果などから天仁元年（1108年）に降下した浅間山給源 B 軽石に埋没した水田跡の存在が確認されている。しかし、昭和初期において当地区は工業団地建設のため造成がおこなわれ、現在は工業団地は別地区へと移転されているものの、当時の建築物の基礎などにより、かなりの部分において遺構の破壊が行われていることが考えられた。

したがって当教育委員会としては、今年度、区画道路建設予定部分について試掘調査を実施。その結果遺構の存在が確実視されたため、文化財保護と開発をめぐり、関係各部局間と度重なる協議を重ねた結果、本区画整理事業の公共性の高さなどから、でき得る限り遺跡保護に努力をし、やむを得ず破壊を受ける部分について事前に発掘調査を行い、記録保存を図るとの方針を立て、平成 5 年 4 月より担当職員 2 名を配置し、調査に当たった。

第 2 節 調査の概要

1. 調査の方法

今回の対象地の周囲には駐車場が多く、調査区の設定は駐車場への出入り口の確保などのため、5 区画に分割し、それぞれⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅳ区、Ⅴ区として設定をした。

遺構の確認は、旧耕作土上面の厚い盛土を大型重機によって掘削。浅間 B 軽石に埋没した水田跡の検出を想定しながらも、各区画毎にあらかじめシルト質基盤層までの試掘坑を設け土層を把握、B 軽石のほかにも他のテフラに覆われた遺構面の存在を確認。それぞれ第 1 面までは大型重機によって掘削。下層面までは大型重機または人手により覆っている土壌を掘削した。

遺構の測量は、基準点として区画整理事業用の座標杭から、発掘調査用の任意の点(0A, 0B)を委託により設置。10m を 1 単位として、実測段階において必要に応じて細分化して使用。後日、国土座標値との誤差を修正した。標高は94.672mを基準とした。遺構平面図については1/40平板測量、セクション、エレベーション図については1/10を基本として実測を行った。等高線については 5 cm 間隔で実施した。

記録写真は、35mmモノクローム及びカラーリバーサルを併用して撮影を行った。

2. 調査の経過（日誌抄）

1993年 4 月20日	東町Ⅲ遺跡発掘調査開始。	1993年 5 月26日	Ⅲ区東 C 下水田土壌を掘り下げ
	Ⅰ区、重機による表土掘削。		下面において溝を検出。
	状況の良い B 下水田跡を検出。		Ⅲ区西 C 下水田跡調査開始。
4 月24日	Ⅰ区調査終了。埋戻し。	6 月 8 日	Ⅲ区調査終了。
4 月25日	Ⅱ区、重機による表土掘削開始。	6 月12日	Ⅳ区重機による表土掘削開始。
4 月28日	Ⅱ区調査終了。翌日より埋戻し。		A 軽石の水平堆積確認。
5 月 6 日	Ⅲ区、重機による表土掘削開始。	6 月16日	A 下面調査開始。
	B 軽石、C 軽石の堆積を確認。	6 月25日	Ⅳ区 B 下水田跡調査開始。
5 月12日	Ⅲ区 B 下水田跡調査終了。人手により C 軽石下面まで掘削開始。	7 月 9 日	Ⅳ区 C 水田土壌下で溝を検出。
		7 月14日	Ⅳ区調査終了。埋戻し。
5 月20日	Ⅲ区東、C 下水田跡検出。B 下面と C 下面との間に F A 洪水層に埋没した水路を断面において確認。Ⅲ区西、F A 洪水層下面調査を開始。	7 月16日	Ⅴ区重機による表土掘削開始。
			B 下水田跡検出。
		7 月23日	Ⅴ区調査、埋戻し。
			東町Ⅲ遺跡現地発掘調査終了。
			以後断続的に整理作業、報告書作成。

第 3 節 遺跡の地理的、歴史的環境

1. 地理的環境

群馬県高崎市は、関東平野の北西端部に位置する。北西部を山々に囲まれ、そこに水源をもつ大小の河川は、本市を乗せる前橋・高崎台地を概ね北西方向から南東方向に向けて流れ下る。高崎市全体の地形も河川の流れと同様に概ね北西から南東に向けてゆるやかに低くなる。

本遺跡は、高崎市中央部の東町^{あずまちょう}に所在する。本遺跡の西約 1.8km のところで烏川と碓氷川が合流し、北東 2.5 km を井野川が、それぞれ南東流している。二つの河川に挟まれた台地上には、さらに小さな河川が網状に南東流し、微高地と低湿地が混在する。本遺跡の北東 0.2km を本遺跡やこの付近の地形形成に深く関係していると思われる長野堰が南東流している。本遺跡は、烏川左岸段丘の東側に広がる後背湿地に位置する。

2. 歴史的環境

高崎市における旧石器時代遺跡の本格的調査例はごく僅かであるが、雨壺遺跡、八幡中原遺跡、岩鼻坂上北遺跡において遺物が検出されている。

縄文時代遺跡^{註 1}は、中期後半の段階においてその数を増す。高崎市南西部に広がる観音山丘陵地帯や烏川、井野川などの中小河川沿岸の段丘上、碓氷川、烏川に挟まれた洪積台地上において集落が数多く検出されている。本遺跡の位置する烏川と井野川に挟まれた台地上では、その微高地の部分において遺物の検出は見られるものの、遺跡数は少ない。今後の調査による成果が期待される。

高崎市における弥生文化の発展は中期後半以降と考えられている。本遺跡南南東約 1 km には中期後半土器を出土した競馬場遺跡、南南西約 1.3km には中期後半土器の標式遺跡となる竜見町遺跡が位置する。東約 1 km に位置する高関堰村遺跡^{註 2}では中期後半の集落の周りを囲んでいたと思われる環濠が検出され、微高地上に集落の存在を窺わせている。本遺跡において浅間 C 軽石に覆われた水田跡の表面に中期後半から後期のものと思われる土器片が点在しており、今後周囲の微高地上に集落が検出されれば、本遺跡との関係が注目される。

古墳時代遺跡は、周囲の微高地上において住居跡や墳墓等が確認されている。この地域での古墳時代生産遺跡は検出例が少ない。しかし 6 世紀代の榛名山二ツ岳の 2 度の大噴火に伴う洪水は榛名山麓に水源をもつ中小河川をつたい、台地上を網状に流れる小河川にまで及んだことが考えられる。周囲の微高地上に存在が想定される集落の生産基盤が、本遺跡の位置する台地上の低湿地に存在する可能性は非常に高いと考えられる。

平安時代末期の天仁元年(1108年)に大きな被害をもたらした浅間山大噴火に伴う噴出物(浅間 B 軽石)に覆われた水田跡は、市内随所で多数検出されている。本遺跡に隣接する東町^{註 4}、東町Ⅱ遺跡^{註 5}ほか近隣の試掘調査^{註 6}においても、近現代の建築物による攪乱が多いものの、良好な水田跡が検出されている。

中世においては、長野堰流域に沿って環濠屋敷が点在する。本遺跡西約 0.5km に位置する岡田屋敷もその一つである。また近年の発掘調査で長野堰流域に位置する反町屋敷^{註 8}や下中居環濠遺構群^{註 9}の一部が検出されている。

近世においては西約 1 km に高崎城が位置し、城下町は江戸の町にも劣らぬほどの賑やかさであったと伝えられているが、城下町より離れた本遺跡周辺は水田地帯であったと思われ、近代において高崎に鉄道が引かれた後も本遺跡の位置する高崎駅東口周辺は昭和初期まで至るところに水田が残っていた。

註 1 高崎市の縄文時代遺跡研究の現状と課題 『高崎市史研究』第 3 号 1993年 高崎市史編さん室

註 2 高関堰村遺跡 1992年 高崎市教育委員会

註 3 上中居辻薬師Ⅱ遺跡 1992年 高崎市教育委員会、高関村前遺跡(1992～1993年) 1993年 高崎市教育委員会
高関村前Ⅱ遺跡(1993～1994年 高崎市教育委員会)調査においても住居跡が検出されている。

註 4 東町遺跡 1989年 高崎市教育委員会

註 5 高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 1992年 高崎市教育委員会

註 6 高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 1990年 1993年 高崎市教育委員会

註 7 群馬県の中世城館跡 1988年 群馬県教育委員会

註 8 上中居辻薬師遺跡 1989年、上中居辻薬師Ⅱ遺跡 1992年 高崎市教育委員会

註 9 下中居条里遺跡(平成 4 年度、平成 5 年度 高崎市教育委員会)調査において環濠の一部検出。

第2章 成果

第1節 標準層序

すべての区画で天仁元年(1108年)浅間山B軽石の良好な堆積がみられた。IV区においては天明3年(1783年)浅間山A軽石の水平堆積が確認された。III区においては浅間山C軽石層が確認され、榛名山二ツ岳火山灰(FA)、軽石(FP)を含む洪水層は、すべての区画において確認されている。本遺跡における標準層序を以下に示す。

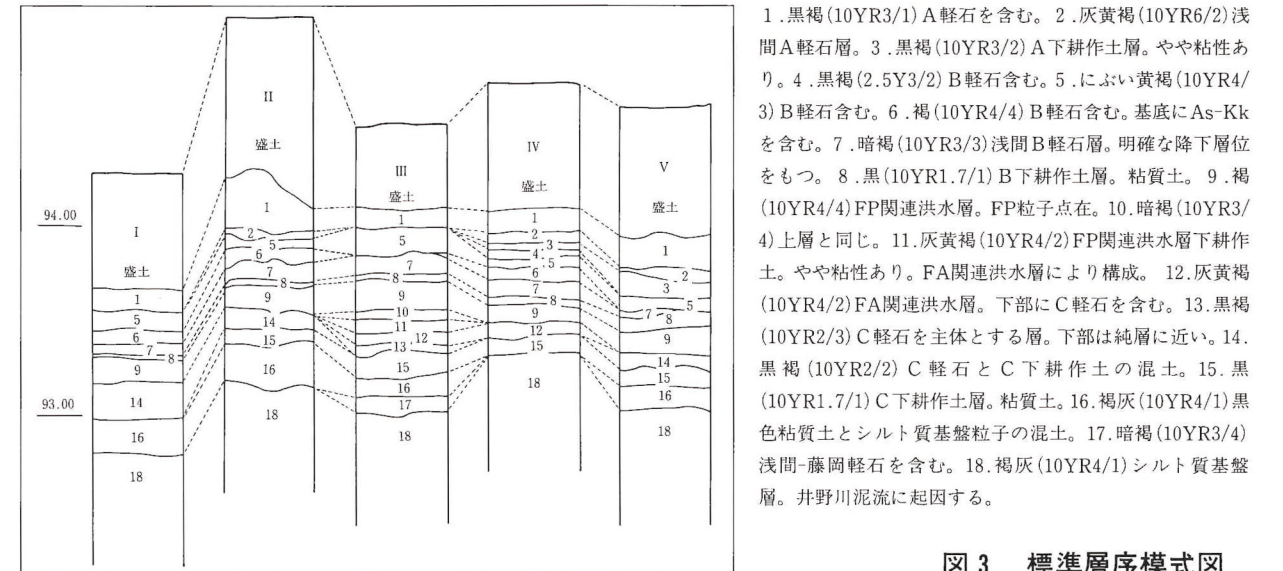


図3 標準層序模式図

第2節 検出した遺構

1. 浅間A軽石下水田跡

IV区において天明3年(1783年)浅間山A軽石の堆積を確認。軽石を除去し、平面調査を行った。畦畔状遺構4本、畝状遺構10条を検出した。耕作土と思われる黒褐色土壌はやや粘性を帯び、水田土壌である可能性を含むため、プラントオパール分析を実施。採取試料からは17,000個/g以上の極めて高い密度でイネ特有のプラントオパールが検出された。これまで高崎市内では、A軽石を伴う遺構として、畠や水路、また当時の復旧作業を窺わせる処理坑及び処理溝、灰塚などが挙げられるが、水田跡については未発見であった。この原因に当時の復旧作業及び後世の耕作によりA軽石が除去されたことなどが考えられるが、今回検出された遺構においては、5cm程度のA軽石が遺構面を覆っていること、畦畔状遺構が伴うこと、プラントオパールの検出密度が高く、稲作が行われていた可能性が極めて高いことなどから、高崎における最初の浅間A軽石に覆われた水田遺構と考えられる。

2. 浅間B軽石下水田跡

天仁元年(1108年)降下の浅間B軽石は、すべての区画において10～20cm程度の良好な堆積がみられた。畦畔状遺構14本、溝跡4条を検出した。I区では、東西方向の畦畔4本、同じく東西方向の溝跡1条を検出した。畦畔幅は80cm程度、高さは7～10cm程度である。II区は攪乱がひどく、調査区北端で東西方向の畦畔1本を検出した。畦畔幅は80cm程度、高さは7cm程度である。III区は調査区中央の攪乱により東西に2分割され、畦畔状遺構4本、溝跡1本を検出した。調査区東においては、南北方向の2本の畦畔に挟まれた水路が検出され、幅は全体で4.4mを測る。規模及び形態から1町を区切る大畦畔と思われる。水路覆土では、浅間B軽石の降下单層を明確にみることができ、その上層には浅間一粕川テフラ層(As-Kk)^{註10}が検出されている。ほかに調査区東で南北方向の畦畔1本、西で同じく南北方向の畦畔1本を検出した。双方とも高さは7～10cm程度であるが、幅1.2～1.5m程度と東西畦畔より比較的大きい傾向がある。調査区西の水田面は、他がほぼ平坦であるのに対し、起伏に富んでおり田おこしの状況を想定させる。IV区においても攪乱が随所にみられたが、畦畔状遺構3本、溝跡2条を検出した。畦畔のうち2本は調査区中央付近にある微高地からのびるものである。ほか調査区北東端で南北方向の畦畔1本を検出、幅60cm、高さ6cm程度である。これと並んで同方向の幅40cm、深さ7cmの溝を、調査区中央では東西方



図1 遺跡周辺図

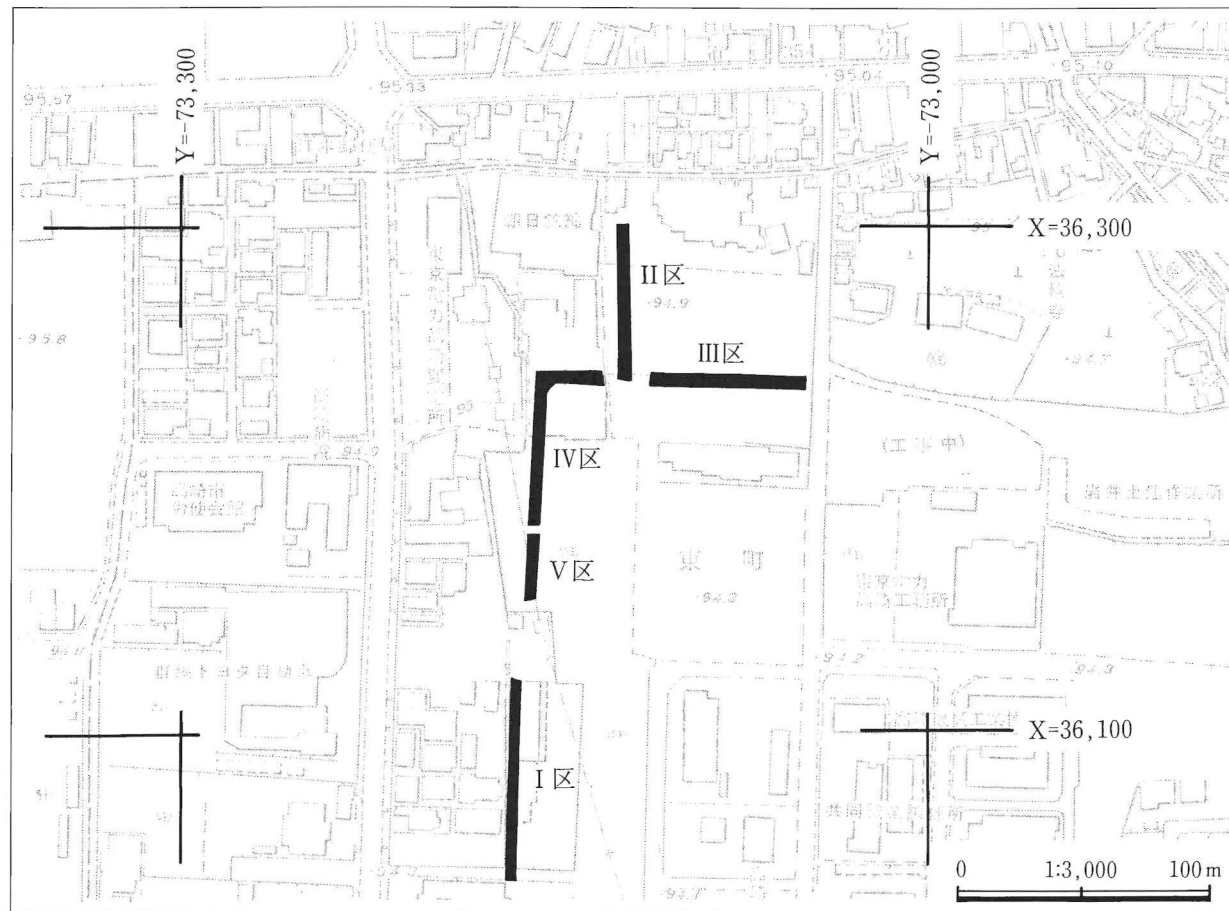


図2 トレンチ配置図

向の幅40cm、深さ4cm程度の溝を検出した。V区では3段の棚田状になっており、北側が高く、標高は北93.544m、中央93.452m、南93.370mとそれぞれ約10cm程度の比高差をもって南下する。今回検出したB下水田跡全体の地形でみると、概ね北、東が高く、南、西がやや低い。高低差は南北で40cm、東西で18cmである。以上、水田1区画の規模や畦畔の広がりを追うことはできなかったが、東西及び南北畦畔のそれぞれの傾きがほぼ同じであり、1町を区画すると思われる大畦畔が検出されたことから、本遺構は条里制地割を窺わせるものと考えられる。

3. 榛名山二ツ岳降下火山噴出物関連洪水層下遺構

各区画のB軽石下水田土壌下には、榛名山二ツ岳の6世紀初頭及び中葉の火山噴出物(以下、前者をFA、後者をFP)を含む洪水層が堆積していた。これは榛名山麓に水源をもつ中小河川をつたい、台地を網状に流れる小河川まで流れ下って堆積したものと考えられる。本遺跡の北東を南東流する長野堰は、古くは自然河道であったことが考えられており、長野堰に最も近いIII区において、本遺構を検出することができた。なお洪水は層位から複数回起こっているものと思われる。まずIII区東で断面ではあるが、FAに関連する洪水層を切り開いて両側に畦畔状の高まりをもつ水路を検出した。この水路はFPに関連する洪水層によって埋没しており、上位のB下水田跡で検出された水路を伴う大畦畔と同位置にあり、規模、形状など非常に酷似している。また後述する浅間C軽石下水田跡の畦畔も同じ位置にあり、本遺構はそれを切っている。少なくとも3時期において同じ位置を区画しており、このことはこの地域におけるこのラインの規格制を窺わせる。III区西においてはFP関連洪水層を除去し、FA関連洪水層上面において平面調査を実施。東側ほど洪水層の堆積はよくなく、畝状の高まりはあるものの、明確な遺構は検出できなかった。しかし東西両区画のFA洪水堆積層においてプラントオパール分析を実施したところ、密度6,000~12,000個/gのイネのプラントオパールが検出された。このことは当時この土壌において稲作が行われていたことを窺わせる。問題となるのは各洪水層の時期である。上限はそれぞれの噴出年代がそれに当たるが、今回検出された遺構において明確な降下テフラ検出されず、洪水という2次の堆積物によって埋没しており、これらの噴出年代に近いことも考えられるが、断定するには危険性が高い。また長野堰流域で下流の高関村前遺跡^{註11}では8世紀から9世紀前半の土器を含むFA関連洪水層が認められ、さらに下流の下中居条里遺跡^{註12}においてもほぼ同時期の土器を含むFA関連洪水層を確認している。このことはかなりの時間幅で複数回にわたり、台地上の小河川を洪水が襲ったことが考えられる。今回の調査において時代を判定する遺物等の明確な資料を見つけることはできなかったが、今後、近隣及び長野堰水系流域の調査における成果を交えながら検討していく必要がある。

4. 浅間C軽石下水田跡

III区において4世紀中葉以降に降下した浅間C軽石に覆われた水田跡を検出した。III区東においては畦畔状遺構3本、溝跡1条を検出した。うち西側の南北畦畔はFP関連洪水層埋没水路によって切られている。中央の畦畔は幅80cm、高さ5cm程度である。溝は幅20cm、深さ7cm程度である。III区西においては畦畔状遺構3本を検出した。それぞれ幅90cm、高さ5cm程度である。それぞれが西方で交差している。プラントオパール分析の結果、密度は高いもののイネが検出されている。この地域でのC下水田跡は初めての検出である。他の区画ではC軽石の堆積はみられなかったものの、下部にC軽石を含むFA関連洪水土壌下にC軽石を含まない黒褐色粘質土層がみられ、遺構の広がりを窺わせる。また水田面からは弥生中期から後期のほか、古墳前期の土器片が出土しており、弥生時代からの耕作の続行が考えられ、周辺微高地に存在が想定される弥生時代集落との関係が注目される。

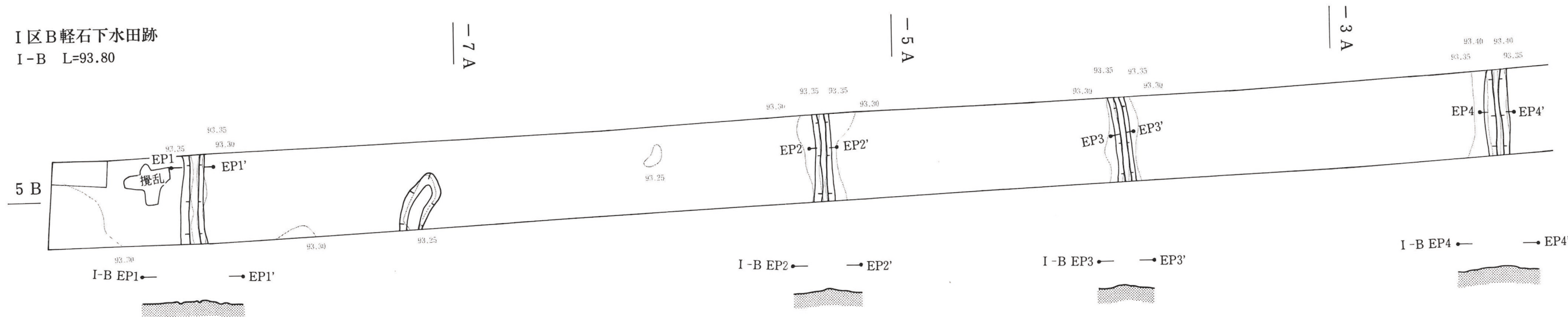
5. その他の遺構

III区でC軽石下水田土壌下より3条、IV、V区からはC軽石を含まない黒褐色粘質土壌下より3条の溝跡を検出した。どれも人工的な要素が強く、方位は概ねIV、V区の溝が北西-南東、III区は2本が北-南、1本は調査区南壁より出て東から西へ向かう。高低差は、検出した範囲が狭いため明確ではないが、概ね北、北西が高く、南、南東が低い傾向にある。III区の東西溝については、東が高く、西が低い。問題となる遺構の時期については、層位から4世紀中葉を溯ると思われるが、遺物を検出することができず、断定する資料に乏しい。

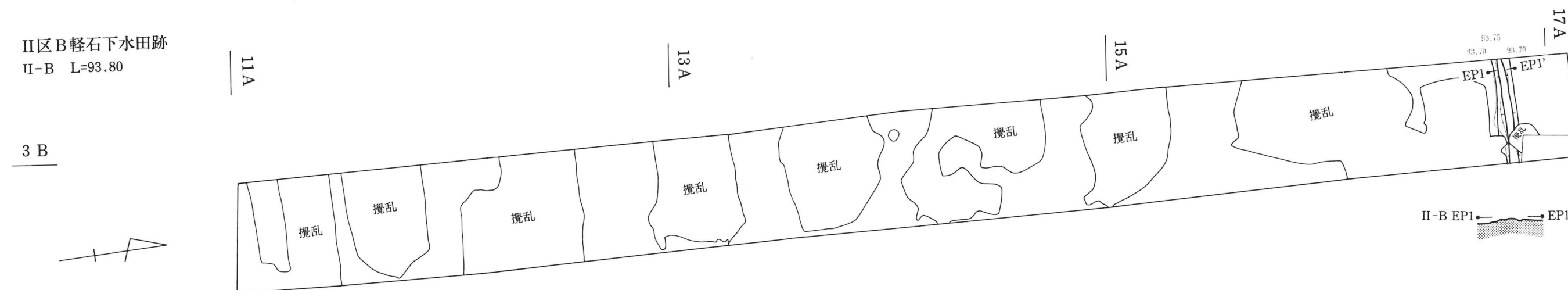
註10 浅間火山の生い立ち 早田 勉 『佐久考古通信』No.53 1991年 佐久考古学会

註11 高関村前遺跡 1993年 高崎市教育委員会 註12 平成5年度 高崎市教育委員会調査において検出。

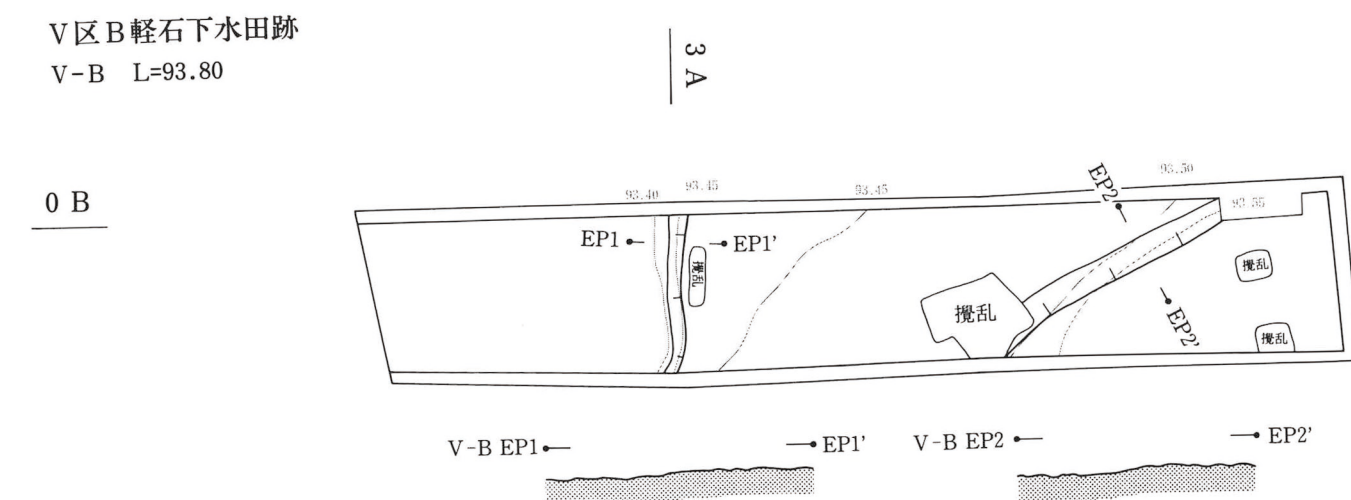
I 区 B 軽石下水田跡
I-B L=93.80



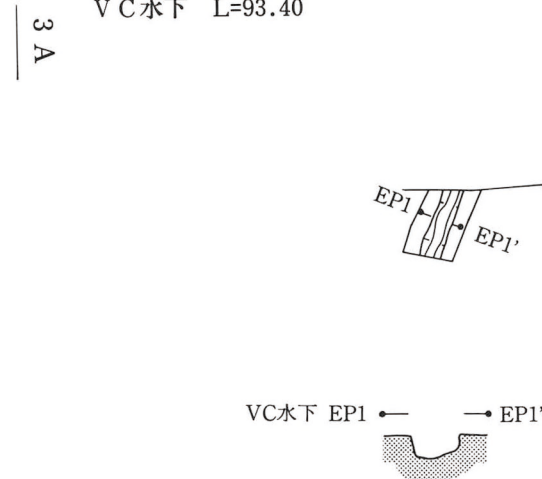
II 区 B 軽石下水田跡
II-B L=93.80



V 区 B 軽石下水田跡
V-B L=93.80



V 区 C 下水田土壌下
VC 水下 L=93.40



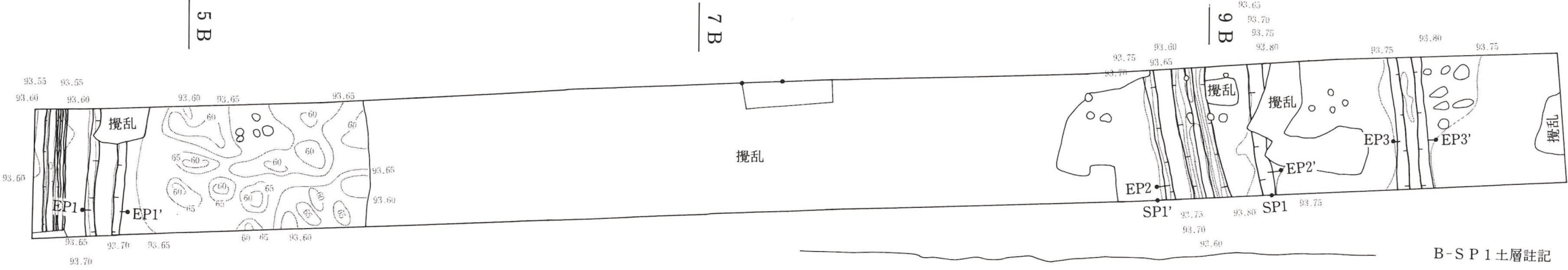
セクション・エレベーション図
0 1:80 4m

平面図
0 1:200 10m

図 4 I 区、II 区、V 区遺構実測図

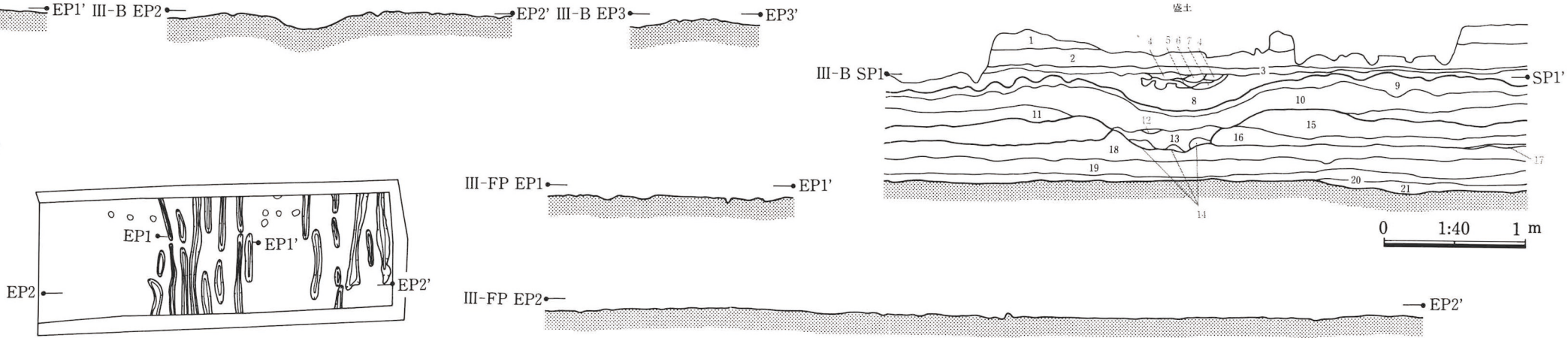
B 軽石下水田跡
III-B L=93.80

11A



FP関連洪水層下
III-FP L=93.60

11A

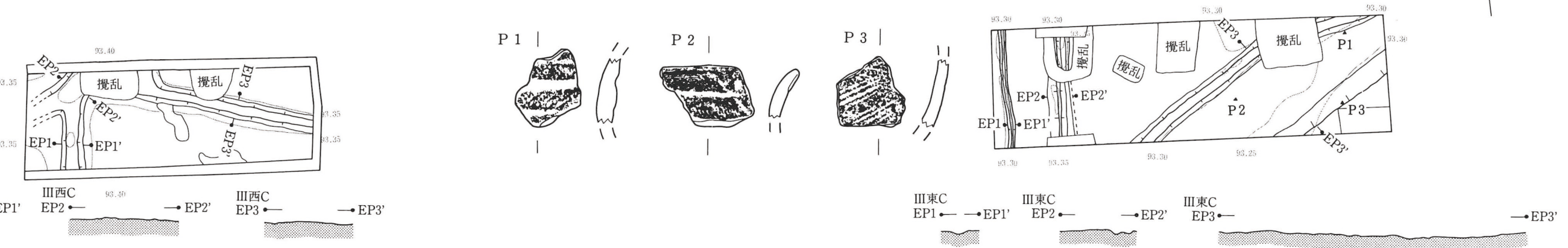


B-S P 1 土層註記

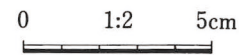
1.標準層序1。2.標準層序5。3.標準層序6。4.暗褐(10YR3/4)粗粒火山灰。5.暗褐(10YR4/4)粗粒火山灰。6.褐灰(10YR4/1)細粒火山灰。4、5、6層はAs-Kkに同定。7.褐(7.5YR4/6)As-Bテフラ終末期の桃色火山灰を含む。8.標準層序7。9.標準層序8。10.標準層序9。11.標準層序10。12.褐灰(10YR4/1)FP粒子含む砂層。13.にぶい黄褐(10YR5/3)FP粒子含む細砂層。14.黒褐(10YR2/2)粘質土。15.標準層序11。16.標準層序12。17.標準層序13。18.標準層序15。19.標準層序16。20.標準層序17。21.標準層序18。

C 軽石下水田跡
III-C L=93.60

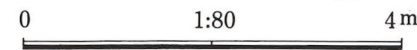
11A



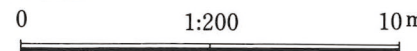
遺物図



セクション・エレベーション図



平面図



C 下水田土壌下
III C 水下 L=93.60



C 水下-S P 1 土層註記

1.標準層序11。2.標準層序12。3.標準層序15。4.黄灰(2.5Y4/1)粘性強い。5.黒(10YR2/1)粘性強い。6.黒褐(10YR2/2)粘性強く、固く締まる。

C 水下-S P 2 土層註記

1.黒(10YR2/1)粘性強い。2.黒(10YR1.7/1)粘性強い。3.灰オリーブ(5Y4/2)シルト粒子混入。

11A

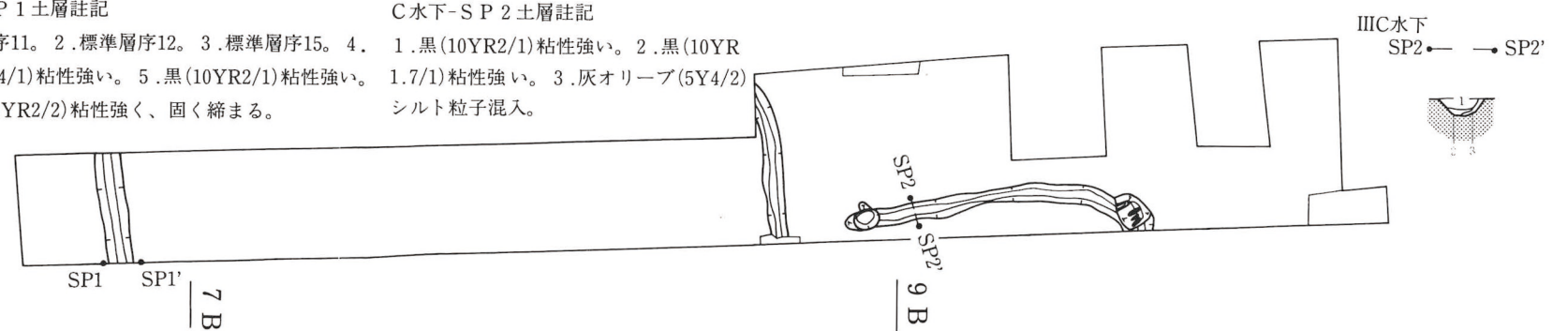
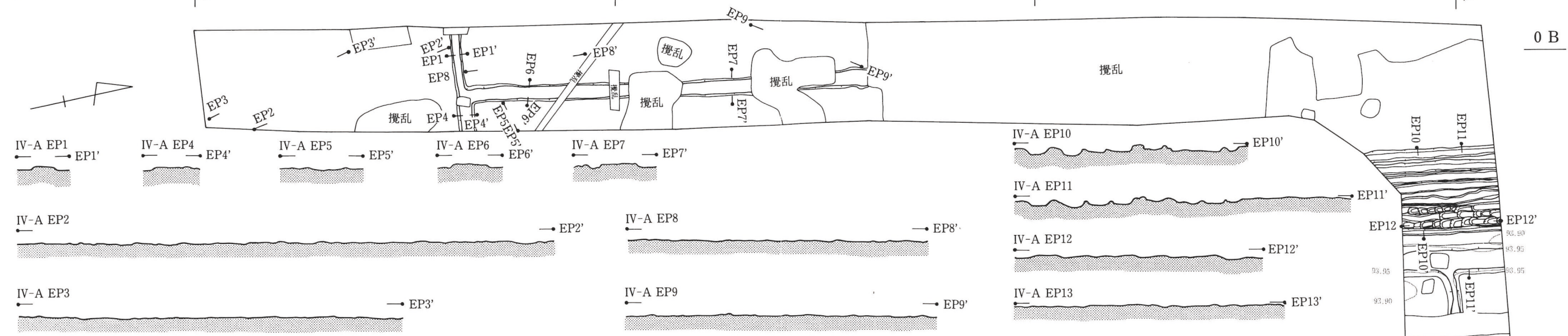
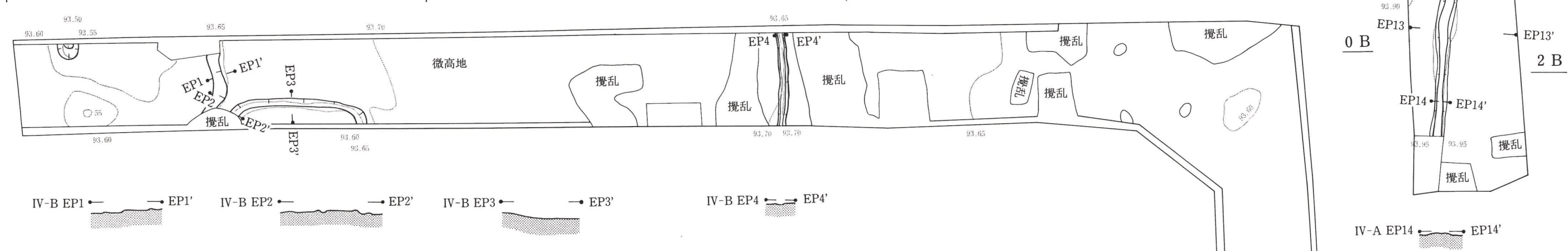


図5 III区遺構及び遺物実測図

A 軽石下水田跡
IV-A L=93.90



B 軽石下水田跡
IV-B L=93.80



C 下水田土壌下
IVC水下 L=93.40

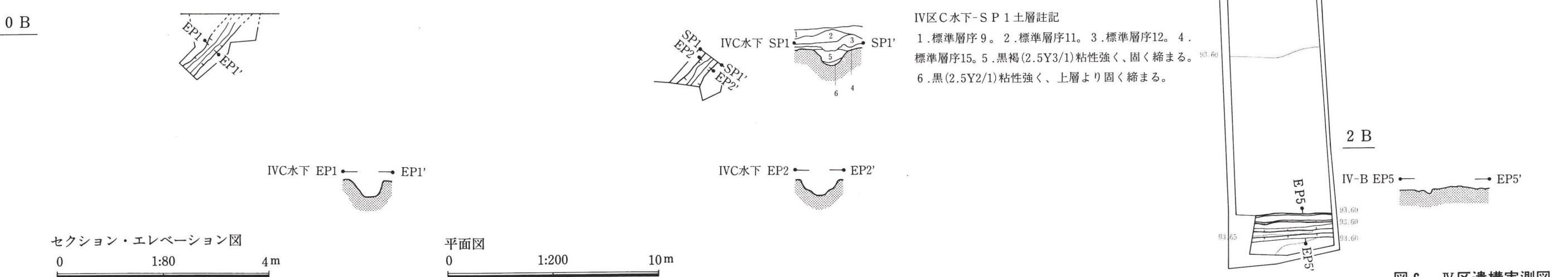
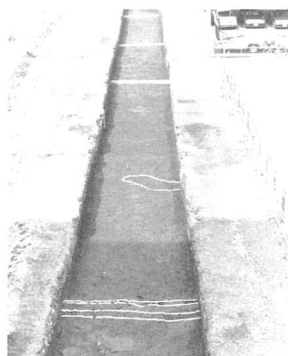


図 6 IV区遺構実測図

写真図版



I 区B下水田跡(南から)



II 区B下水田跡(北から)



III区西B下水田跡(西から)



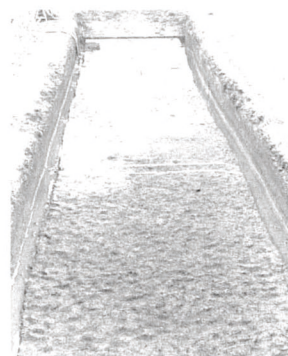
III区東B下水田跡(西から)



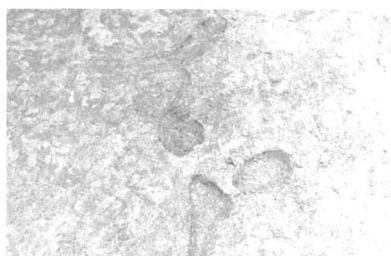
IV区B下水田跡(東から)



IV区B下水田跡(南から)



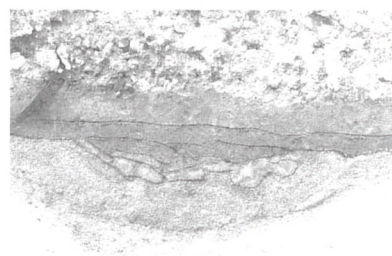
V 区B下水田跡(南から)



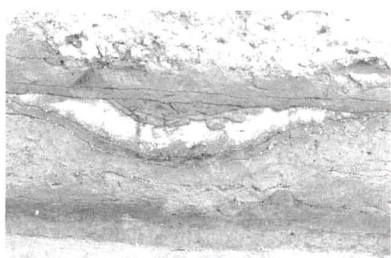
I 区B下人足、獣足痕(西から)



III区B下大畦畔(北から)



III区B下大畦畔水路土層(北から)



III区FP洪水層下水路土層(北から)



III区西FP洪水層下面(南東から)



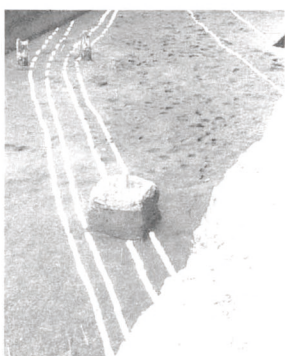
III区東C下水田跡(北西から)



IV区A下水田跡(東から)



IV区A下水田跡(南から)



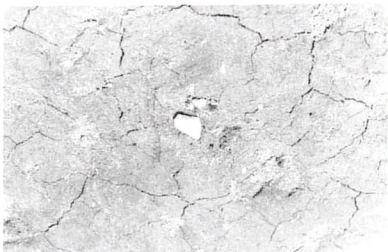
III区東C下畦畔(南西から)



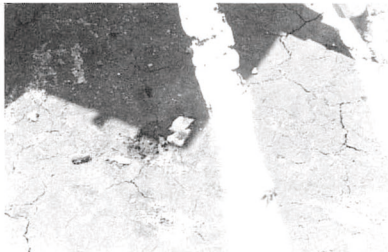
III区西C下水田跡(西から)

抄 録

フリガナ	アズマチョウⅢイセキ							
書名	東町Ⅲ遺跡							
副書名	高崎都市計画事業東口第二土地区画整理道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	群馬県高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第130集							
編著者名	高井郁朗、鷲谷亨信							
発行者名	群馬県高崎市教育委員会							
所在地	群馬県高崎市高松町1番地							
発行年月日	1994年3月31日							
フリガナ	フリガナ	コード						
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
アズマチョウ 東町Ⅲ イセキ 遺跡	タカサキシアズマチョウ 高崎市東町 139番地 他		226	36° 19′ 25″	139° 1′ 7″	1993年4月20日 1994年3月31日	4,059㎡	区画整理 道路建設
所収遺跡	時代	種別	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東町Ⅲ 遺跡	弥生時代		水路 6条				C軽石下水田 土壌下	
	古墳時代	水田跡	畦畔 水路	6本 1条	弥生中～後期 古墳前期		浅間C軽石下	
	平安時代	水田跡	畦畔 水路	14本 4条			浅間B軽石下	
	江戸時代	水田跡	畦畔 畝状遺構	4本 10本			高崎市で初め ての浅間A軽 石下水田跡	
	時代不詳 (古墳～奈良・平安)	水田跡	水路を伴う 大畦畔				榛名山ニッ岳 噴火に伴う火 山噴出物を含 む洪水層下 (洪水時期不詳)	



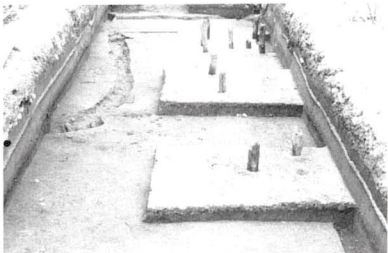
Ⅲ区東C下遺物出土状況(東から)



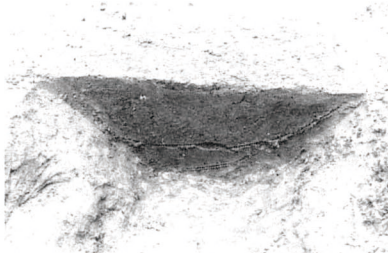
Ⅲ区東C下遺物出土状況(東から)



Ⅲ区東C下遺物出土状況(西から)



Ⅲ区C水田土壌下全景(東から)



Ⅲ区C水下水路SP2(西から)



Ⅲ区C水下水路SP1(北から)



Ⅲ区C水下水路(東から)



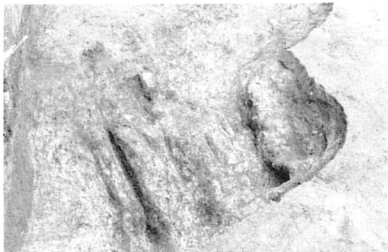
Ⅲ区C水下水路(北から)



Ⅲ区C水下水路(北から)



V区C水下水路(東から)



Ⅲ区C水下水路工具痕(東から)



Ⅳ区C水田土壌下水路(南東から)



Ⅳ区C水田土壌下水路(南東から)



Ⅲ区C下出土遺物(P1)



Ⅲ区C下出土遺物(P2)



Ⅲ区C下出土遺物(P3)



Ⅲ区C下出土遺物

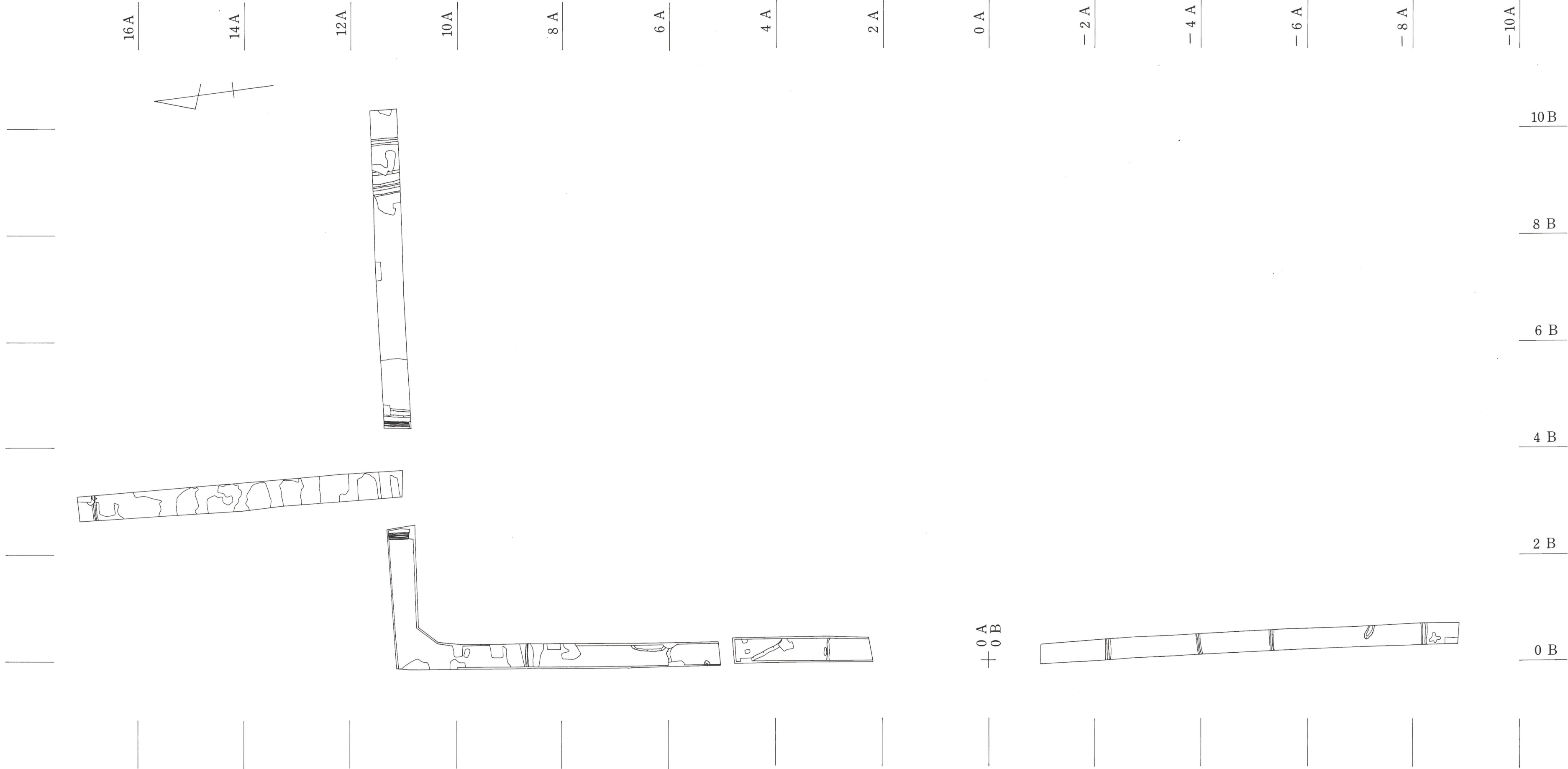
高崎市文化財調査報告書第130集

東町Ⅲ遺跡

1994年3月 印刷発行

編集発行 高崎市教育委員会

印刷 進広堂印刷株式会社



付図 東町Ⅲ遺跡 浅間B軽石下水田跡 全体図